

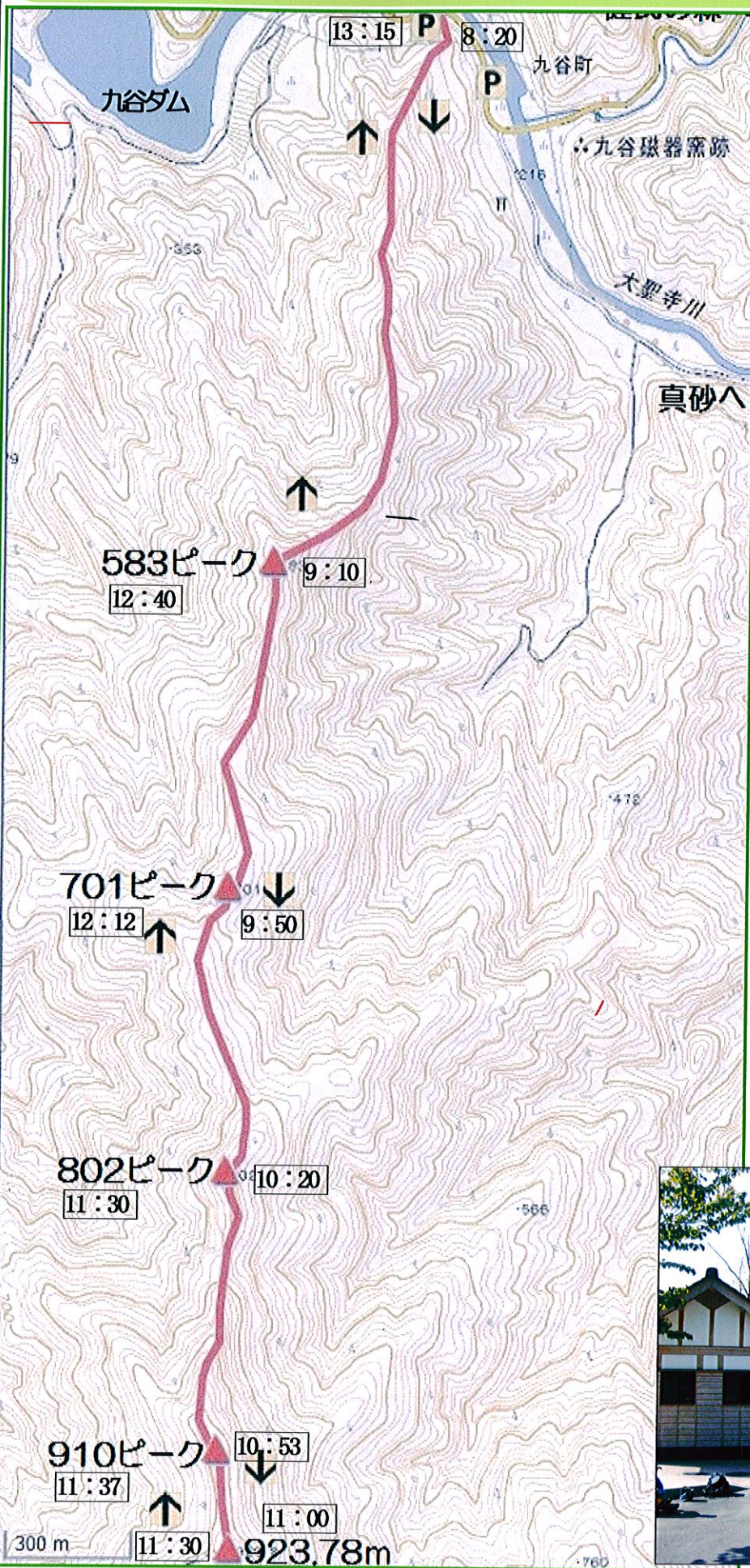
新緑・シャクナゲが美しい菅倉山

山頂より大日山・浄法寺山・南丈競山など望む（平成29年4月30日）

あしハイキング
クラブ

お父さんの山行き紀行

ishiduka



四月三十日、今年二回目の登山参加。今回は一八名で石川県加賀市と福井県坂井市境界に聳える菅倉山（九三・七八〇）に登る。天候も快晴で、シャクナゲを目的とする登山者で賑わった。

八時二〇分登山開始。山頂には一一時に到着。一時三〇分に下山開始。一三時一五分には下山完了し、昼食を摂る。昼食を終え、竹田にある温泉宿泊施設「たけくらべ」で、温泉につかり身体を癒し、登山完了となる。

参者（アイウエ順）
 男：荒川・石塚・伊部・上田・加藤
 小泉・清水・下村・清家・畑中
 前田・宮本（12名）
 女：小柏・津田・鈴木・伴藤・種田
 森田（6名）

私にとって菅倉山は初めての山。付近の富士写ヶ岳や火燈山、小倉山は登っているが、何処にあるのかさえ知らなかった。

七時に県雪研事務所に集合。小泉さんの車に、鈴木さん、伊部さんと同乗する。今回は四台の車に分乗する。まず竹田をめざし、竹田で伴藤さん達と合流。我谷ダムに進み、更に大聖寺川をさか上る。富士写ヶ岳への登山道入口の赤い吊り橋右手に見ながら通過する。これから先は九谷ダム上流に上がり、新たに体験する区域となる。

菅倉山登山口の駐車場には、八時に到着する。駐車場も整備されていて、トイレも綺麗だ。福井市安居地区の人達が中





スギ林の中を進む (分岐点付近)

スギ林の中を進むと、鉄塔に向かう道との分岐点にさしかかる。左側の登り道を進むと、途中にスギの枯れ木が数本続く。根元を見ると明らかに熊



キツツク



セイヨウタンポポ

の釜の蓋」と言っていたことを思い出す。付近には黄色い花を着けたセイヨウタンポポや淡いピンク色の花を着けたカキドオシが咲いている。



登山道を登り始める参加者

型バスで大勢やってきている。八時二〇分から登山開始。登山道入口付近で、紫色のキランソウが咲いている。これを見ると元福井市自然史博物館館長だった渡辺先生が「別名地獄



ヤマツツジ



倒れたスギを乗り越える

更に進むとスギが横倒しになっていて、そのスギを乗り越えて進むと、橙



ヤブツバキ



ミヤマシキミ

剥ぎにより枯れたものと分かる。付近には、ヤブツバキの赤い花、淡く白いミヤマシキミの花が咲いている。



根元の樹皮が熊に剥かれている



ミヤマシキミ

新緑が美しい森の中を進むと、軸が赤く、濃い緑色の葉を展開しているユズリハが多くなってくる。ここまで、花が多かったので、カメラ撮影に忙しい。先を行く人たちに遅れをとっている。最後尾を担当する畑中さんと植物の話しながら歩くと、太いナツツバキの木が目の前にあり、畑中さんに



小大日山 大日山

しばらく登ると、視界が広がる尾根に出る。ここからは、東方面に大日山、西方面の山なみが眺められる。

色のヤマツツジ、釣鐘状にクリーム色の花が下がるウラボシロヨウラクツツジ、濃いピンク色のミツバツツジの花などが次々と現れ、花が満喫できる登山となってくる。



ウラボシロヨウラクツツジ



ミツバツツジ



畑中さんとナツツバキ

「木の太さが分かるように横にたっってもらえませんか?」とお願いして、ナツツバキとのツーショットを撮影する。



ユズリハ



火燈山

富士写ヶ岳

「夏には真っ白な花を着けたナツツバキがたくさん見ることができそう!」
 と思う。
 しばらく登ると、とても綺麗なタムシバの花を見つける。咲き始めだから、風を受けにくい環境にあるため、花びらがしっかりしていて、これまで見たこともないほど上品で淑やかな雰囲気を出している。この山はイワウチワは意外に少ない所だったが、僅かに見ることができたので、カメラに収める。



杉

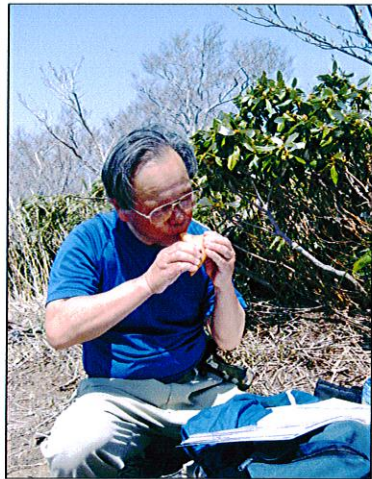
登山道は、僅かのアップダウンを繰り返す箇所があり、全般的には緩やかな尾根道を進む感でした。山頂手前では、ヒメコマツも登場。山頂には一時に到着



いろいろなシャクナゲの花を楽しめました

道沿いの木々に掛けられている。お蔭で手持ちの地図と照合することができ、現在の確認が容易となる。
 そのうち、この山の見どころのシャクナゲが次々と出てくる。固い蕾、赤く開きかけた花、やっと開き揃った花など、次々と出現する。

撮りに笹原の向こうに出てみると、二人の女性登山者の前で、しっかりとアピールしている。さすが女性にはサーピス精神が旺盛だ。演奏する加藤さんの後ろには、まだ固い蕾をたくさん着けたシャクナゲが群生している。
 エーデルワイスと植生の宿の二曲の演奏を終えたところで、おにぎり一個



オカリナ独奏中の加藤さん



山頂で会った女性たち「オカリナ演奏はどうですか？」

する。早速、加藤さんのオカリナの音色が聞こえてくるが、姿がない。
 「他の登山者が多いので、隠れて演奏しているのかな?」と思い、写真を



山頂からは右手に浄法寺山、南丈競山、北丈競山が見える。浄法寺山と南丈競山がほぼ重なって見える。左手には、残雪のある大日山と小大日山が見える。山頂では、全員で記念撮影をして、一二時半に下山開始。



山頂に立つ宮本、伊部・荊川の名氏(左から)



大日山
小大日山



しばらく山頂からの展望を楽しんでいると、続々と登山者が登ってくる。「どこから凝らされたのですか?」と尋ねると「大野市から来ました。親岳会に入っています」とのこと。他にも福井市内からの団体などシヤクナゲの花を求めて来たようだ。
一一時半には、下山開始。登りは足



青空に映えるタムシバ

元を見て歩くので、眼に入るものが狭くなるが、下山は、広く見渡せるので新緑が一層柔らかく目に飛び込んでくる。タムシバの花も山なみをバックに撮影できた。



下山する一行



新緑が萌える山はとても綺麗です

この付近の林は、一度伐採され、天然更新されたフナノ二次林を形成している箇所が多くみられる。フナノの生命力を感じる。これらのフナノが成長すると、自然の摂理で弱い木は淘汰されていくのだらうと思つ。
下山を再開すると、途中、樹木が少な



途中休憩でくつろぐ一行・小泉さんと目線があつてしまった

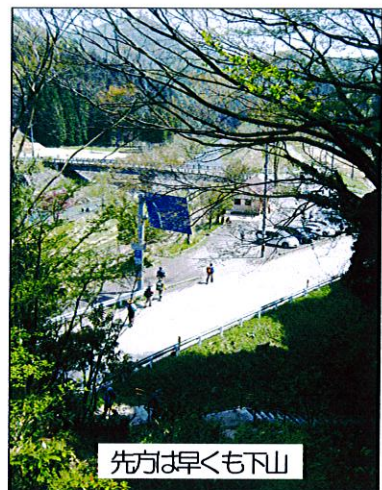
三〇分位下山した付近で、小さなフナノの木に囲まれたためゆったりしたところで、小休止となる。

泉で入浴、経費精算の後、三時半頃たけくらべを出発。四時頃無事に雪研に到着する。今日も楽しい山歩きができました。小泉さん運転に苦勞様でした。



調理する参加者

いつもの通り、コック長の伴藤さんが、フライパンや食材を取り出し、みんな協力して、携帯コンロを三個据え付け、調理にかかる。今日は焼きそば主体のメニューで、ご馳走になる。帰りは、二時半過ぎにたけくらべ温



先方は早くも下山

く展望のきく場所に出る。ここからはこれから下山するコースの美しい新緑が望めて、とても感動した。
一三時一五分には下山完了する。早速、大聖寺川が眺められるところに移動し昼食とする。